

## 医心 伝心

# 脳卒中の発症頻度(季節、日内、週内変動)について

県医理事 平野八州男

我が国の脳卒中死亡率は、1970年代以降、低下傾向にあり、最近では悪性新生物、心疾患、肺炎について死因の第4位に位置しています。しかし発症すれば、死を免れても後遺症により日常生活動作を障害し、生活の質を著しく低下し寝たきりになる疾患です。近年、人口の高齢化と食生活の欧米化に伴い、日本人の脳卒中の病態が大きく変化しています。最近の統計データによると、過去には高血圧が一番の原因となっており、脳の深部の細い血管が詰まっておこる「ラクナ梗塞」が多かったのですが、最近では脳の太い動脈に血栓が詰まる「アテローム血管性脳梗塞」が増えてきました。また、高齢化による「心原性脳塞栓症」も増えています。

季節別にみた発症頻度では、脳出血・脳梗塞は気湿に反比例して発症し、男性では、全脳卒中、脳出血の発症には、気湿日内較差が関与すると報告されています。男性では、全脳卒中、ラクナ梗塞、アテローム血栓性脳梗塞は夏に多く、女性では全脳卒中、心原性脳塞栓は冬に多いとしています。北日本と南日本の地域に分けて検討しても同様の結果になっています。発症季節の差異の理由としては、脳出血の発症には夏季の高湿による脱水などが関与し、脳出血には冬季の低温による血圧上昇が関与しているものと推察されます。

脳血管障害者の発症時間帯は、病型によらず22時～4時までの深夜帯は少なく、朝5時から急増

し7時～8時が1～4時までの6倍を超えるピーク発症となります。11時～12時は5.4倍、17時～18時にも3.7倍の小ピークが見られます。これらの時間帯を除くと、12時～20時の発症頻度は深夜帯の2.5倍前後であり、23時台の発症者数は深夜帯発症者の4%に過ぎません。虚血性、出血性血管障害別の発症日内変動も類似したパターンとなっています。週内変動では、発症総数は月曜日が最も多く、次いで金、土曜日が多くなっています。虚血性障害は男性では月曜日に高く、女性では月曜日に高くなり月曜日以外に、金、土、日曜日に多いようです。週末の変動の原因には身体的要因より社会的な生活との関係が大きく、就労の有無、軽、中、重度の仕事量や、月曜日は休業後の仕事始めによる影響が大きいのと思われる。土曜日は、疲労蓄積の為かも知れません。女性の週末高値は夫、家族への対応、家事の負荷が大きい為とも考えられます。

これらの季節、時間、週内変動の統計は、発症予防を試みるうえで重要であり、今後の救急対応への備えを計画する際の重要な参考にもなると思われる。

脳卒中情報システム委員会においても医師会、行政が一体となって、今後も疾患の減少、予防に努力していく所存です。今後とも宜しく御協力の程お願い致します。